

近畿支部女性内視鏡医キャリアサポート特別企画

～当事者、上司共に聞いてほしいライフィベントと働き方について －多様な人材が現場で活躍するには－～

企画趣旨：

女性内視鏡医の会の特別企画は本会で4回目となります。前回までの企画では3回に渡り、2024年4月に開始された「医師の働き方改革」をテーマとして、その概要についてや日本医学会連合の指針について、成功事例の具体例（他科3施設、消化器内科2施設）について、近畿支部で行った働き方のアンケート結果について取り上げてきました。

今回は、「ライフィベントと働き方について」をテーマとしました。講師は、「妊娠に際し職場のみんなで読むマニュアル」を作成された京都第二赤十字病院消化器内科の堀田祐馬先生と、前任地岡山大学で女性医師の働きやすさの改善や女性医療従事者の復職支援に取り組まれ、また厚生労働省の医師の働き方改革の中心的なメンバーをお勤めになっておられる京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センターの片岡仁美先生をお迎えいたします。お二人は現在共に京都府医師会のワークライフバランス委員会の委員でもあります。

堀田先生は、「安定期になるまでは口外したくないが、放射線診療・当直・オンコール等制限すべきか、胎児にとって何が正解か、調べれば調べるほど分からぬ」という後輩女性医師からの相談を契機に、アクセスしやすく、わかりやすい読み物を作ろうと「妊娠に際し職場のみんなで読むマニュアル」を作成されWebで公開されています。マニュアルの制作により、医師同士がそれぞれの立場を知り、理解することで、壁がなくなり、互いに気持ちよく仕事ができ、より力を発揮できる医療社会の構築に貢献する可能性を考えておられます。

片岡先生は、従来長時間労働で医療現場が支えられてきたが、これからは医療者自身のwell-beingとの両立を目指す必要があり、ライフィベントに関わらず働き続けられる環境の整備が急務とし、2008年から岡山大学で取り組まれ、制度化されました。制度利用者は180人を超える、多様な働き方の人材が活躍する事は職場にとって有用であるという意識変容が起こったと考えられています。活動の中からどのような工夫ができるかといったケースの紹介も含め今後に活かせる提案をご提示いただきます。

本会では他に、近畿支部で行った働き方のアンケートの中から今回のテーマに関連す

る部位を抜粋してアンケート結果の提示も予定しています。

今回の企画は、ライフィベント期にある内視鏡医や今後ライフィベント期を迎える内視鏡医のみならず、職場の同僚、上司となるすべての先生に是非知っておいて頂きたい内容です。皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。